



希望の始まり

1年 若月 一真さん

(『手で見るとぼくの世界は』 檜崎茜著 酒井以イラスト くもん出版)

この作品に登場する二人の主人公が少しずつ今までの自分とは別れていくように多くのことを乗り越えていくというところが感情移入しやすく多くのことを感じる事ができたと思います。この絵を描いたのはこの場面が強く印象に残っていて、手紙という形で一人の主人公の前にもう一人の主人公が登場したというところを描きたいと思ったからです。作品ではどこにどんな色をつければ自分が想像するものになるのかを考えるのに苦労しました。